

3年生対象:準備講座

国語・算数

基礎トレーニング

書く × 読む × 計算 → 確かな力

アクセスでは中学入試が求める「自ら考え、表現する力」を育成するカリキュラムを作成し、日々その指導にあたっています。「考える力」が育つためには、計算力、読解と表現のための漢字と読む力が不可欠。アクセスでは、確かな学力を育てるための準備段階としてオリジナルテキストを用意し独自の国算基礎トレーニングを行います。

「3年生対象:準備講座」実施要項

《 授業期間 》 9月～1月までの全16回
※国語と算数、それぞれ隔週で8回の授業です。

《 授業曜日 》

新百合ヶ丘校 火曜日(週1回)

あざみ野校 金曜日(週1回)

《 時間 》 午後4時40分～午後5時40分(60分間)

《 会費(教材費を含む) 》

①全納の場合 44,000円(税込)

②分納の場合(9月と11月の2回) 各 22,000円(税込)

3年生対象準備講座:授業進行表

	火曜日	金曜日	科目	内容
1	9月15日	9月18日	算数①	たし算①
2	9月29日	9月25日	国語①	漢字①、音読「ふるやのもり」
3	10月6日	10月2日	算数②	たし算②（和一定）
4	10月13日	10月9日	国語②	漢字②、音読「新ちゃんがないた！」
5	10月20日	10月16日	算数③	たし算③（仮の計算）
6	10月27日	10月23日	国語③	漢字③、音読「ピータイルねこ」
7	11月10日	10月30日	算数④	ひき算①（差一定）
8	11月17日	11月6日	国語④	漢字④、音読「きつねのまど」
9	11月24日	11月13日	算数⑤	ひき算②（過不足）
10	12月1日	11月20日	国語⑤	漢字④、音読「注文の多い料理店」
11	12月8日	11月27日	算数⑥	ひき算③（数を分解してみよう）
12	12月15日	12月4日	国語⑥	漢字⑤、音読「最後の一片」
13	12月22日	12月11日	算数⑦	かけ算①（たし算をかけ算に変身）
14	1月12日	12月18日	国語⑦	漢字⑥、音読「時計屋のおとうさん」
15	1月19日	1月15日	算数⑧	かけ算②（分配法則）
16	1月26日	1月22日	国語⑧	漢字⑦、音読「くましんし」



国語

漢字

「習った漢字にはこんな意味があったのか！」と発見したり、気づいたりするための学習を行います。漢字は、成り立ちに注目して、意味の多義性をとらえたり、熟語を考えたりする学習が大切です。

授業のはじめに、家庭学習をふりかえるための「書き取り問題」を行います。

毎回、20個の漢字一覧表をお渡しします。そこに熟語ものついていますから漢字の部首や成り立ちから意味をたしかめて、それをふまえた熟語の練習に取り組みます。

次の授業では、漢字一覧表の中から出題する「漢字テスト」を実施します。その後で答え合わせをしながら漢字の成り立ちから覚えるときの注意点などについて解説していきます。漢字のトメやハネなどの指導もします。

音読

音読には「脳の活性化」など様々な効用があると言われていています。しかし、この講座では、もっとも単純なことをねらいとしています。

音読のできない子で国語のできる子はいません。一方、国語のできる子で音読のできない子もいません。したがって、国語の力を育むにはまず音読ができるようになる必要があります。音読が上手にできるということは国語ができるための最低条件の一つです。まずは、この最低条件の一つをクリアしていくことがこの講座のねらいです。

取り上げる課題文は一度は読んでおきたい作品を選んでみました。ストーリーを楽しみながらの音読練習をしていきたいと思えます。

	音読の題材	作者
第1回	「ふるやのもり」	民話
第2回	「新ちゃんがないた！」	佐藤州男
第3回	「ピータイルねこ」	岡田淳
第4回	「きつねのまど」	安房直子
第5回	「注文の多い料理店」	宮沢賢治
第6回	「最後の一葉」	オー・ヘンリー
第7回	「時計屋のおとうさん」	大石真
第8回	「くましんし」	あまんきみこ



算数

計算は算数の基本です。計算問題を小学校で習った「やり方」だけで取り組んでいるだけでは、文章題を解く力には結びつきません。

例を挙げて、ご説明しましょう。

$79+98$ を普通に計算すると、くり上がりがあるのでミスしやすいものです。

そこで、 79 は 80 に近く、 98 は 100 に近い。ぴったりの数ならば計算しやすいので、まず、その数で計算します。 $80+100=180$ これなら簡単ですね。

でも、 $79+98$ の計算よりも3大きくなってしまいます。そこで、答えから、大きくなった分を引きます。 $79+98=80+100-3=177$

これで、くりあがりを感じずに計算することができます。

「もし、少し数を大きくして計算したら…」と仮定して計算する方法です。この「もし、～だったら」と考える方法は、「和差算」「つるかめ算」などの文章題の考え方のもとになります。また、問題とはちがう似た数にして計算をする方法は、「分配算」や、「平均算」での「仮平均」などに利用できます。

このような計算方法を身につけることで算数の力は確実に伸びていきます。

学 習 内 容	
第1回	たし算①
第2回	たし算② (和一定)
第3回	たし算③ (仮の計算)
第4回	ひき算① (差一定)
第5回	ひき算② (過不足)
第6回	ひき算③ (数を分解してみよう)
第7回	かけ算① (たし算をかけ算に変身)
第8回	かけ算② (分配法則)



(1) 授業のテキストは、「例題」と「練習問題」に分かれています。「例題」で先生の説明を聞いた後、「練習問題」に取り組みます。

(2) ドリルについて

家庭学習用のドリルを用意します。毎日、時間を決めて取り組んでください。

翌週、国語の授業の日にやったドリルを先生に見せてください。先生が、チェックをした上で返却します。

(3) 授業の中では、「百マス計算」も行います。また、家庭学習用の「百マス計算」プリントもお渡しします。